

概要

○ 水稻品種「青天の霹靂」は、平成27年から東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームによる指導を展開してきたが、出荷実績を分析した結果、年次によっては玄米タンパク質含有率や単収に変動が見られることと、生産目標を下回る生産者が固定化する傾向が見られることが課題。また、令和5年に本格デビューした「はれわたり」は、高品質安定生産のためには関係機関と連携して適時適正な指導を展開することが課題。

○ このため、東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを設置し、関係機関の意識統一を図るとともに、関係機関が一体となって生産者に対して指導を実施。

○ その結果、「青天の霹靂」・「はれわたり」ともに前年より一等米比率が向上

具体的な成果

1 関係機関との連携強化

■ 東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームの設置で管内すべての市町村を対象としたことにより、それまで対象外であった町村についても、情報共有や指導方針の意識統一など連携が強化

2 「青天の霹靂」生産者の良食味米生産の理解度向上

■ 年度別の生産データや次年度の対応策の提示、個別指導により、良食味米を生産するためのほ場条件、土壌分類、腐植含量、施肥管理の理解度が向上

3 品質の向上

■ 「青天の霹靂」・「はれわたり」ともに前年より一等米比率が向上



| 令和7年度「青天の霹靂」生産指導カルテ | | | | | | |
|------------------------------|-------------|------|----------|--|--|--|
| 団体名 | 〇〇農協 | 支店名 | 〇〇営農センター | | | |
| 生産者名 | 〇〇-〇〇〇〇〇〇〇〇 | | | | | |
| 出荷実績 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 産目標 | | |
| 出荷基準達成率 | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| 玄米タンパク質含有率 | 6.0%以下 | 100% | 100% | 100% | | |
| 収量 (kg/10a) | 8.6 | 9.4 | 9.1 | 9.0 (kg/10a) | | |
| 1等米比率 | 100% | 78% | 100% | 100% | | |
| 玄米タンパク質 | 5.6 | 5.3 | 5.8 | 6.0%以下 | | |
| 加量率 (%) | | | | | | |
| ランク | B | A | A | | | |
| 生産実績 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 産改善点 | | |
| 作付は場湿田割合 | 0% | 0% | 0% | 乾田・半湿田への作付 | | |
| 栽植密度 (株/坪) | 70 | 70 | 70 | 70株/坪以上 | | |
| 田植時期 | 5/14 | 5/15 | 5/15 | 5月20日前後 | | |
| 基礎量 (kg/10a) | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0kg/10a | | |
| 追肥量 (kg/10a) | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 栄養診断の実施により決定 →0~2kg/10a | | |
| 追肥時期 | 7/11 | 追肥なし | 追肥なし | 体形形成期までに実施 確率実証、稲の育化程度等 から総合的に判断 | | |
| 収穫時期 | 9/10 | 9/10 | 9/7 | | | |
| 栽培の改善点 | | | | | | |
| ・ 土壌診断結果を基に施肥設計しましょう。 | | | | | | |
| ・ 施肥量は現状が適切です。 | | | | | | |
| ・ 追肥はこれまでどおり栄養診断に基づき実施しましょう。 | | | | | | |
| ・ 健全育成と水管理で初期生育を促進しましょう。 | | | | | | |
| 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム | | | | | | |

普及指導員の活動

令和6年度

- 生産指導プロジェクトチームによる活動
 - 県、市町村、集荷団体、試験研究機関で構成
 - 作付地域内に7か所（「青天の霹靂」5か所、「はれわたり」2か所）の指導拠点ほを設置
 - チーム内での対策、指導内容の技術統一、情報共有
 - 講習会、現地検討会の開催
- 「青天の霹靂」は、「生産指導カルテ」や「青天ナビ」を活用
 - 生産者個別の検査出荷データや栽培履歴に基づき、次年度の対策を記した生産指導カルテを作成
 - 生産目標未達者は重点指導対象者として、個別指導
 - 青森県産業技術センターが開発した生産支援システム「青天ナビ」を活用し、ほ場データに基づいた指導を実施

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門技術を持ち、関係者との協力関係を築くことができる普及指導員だからこそ、生産現場の状況を聞き取りながら、ほ場別のデータを分析して必要な技術対策を指導し、生産者を納得させることができた。
- ・ 日頃から各組織と連携している普及指導員だからこそ、先進農業者、農協、集荷団体、試験研究機関、県、市町村等を結びつけ、関係機関が一体となって、生産者を指導することができた。

青森県

「青天の霹靂」・「はれわたり」の高品質安定生産

活動期間：令和6年度

1. 取組の背景

水稻品種「青天の霹靂」は、県のトップブランドとして、作付地域及び生産者を限定し、栽培基準・出荷基準を設けて良食味と高品質を維持してきた。東青地域においても平成27年から生産指導プロジェクトチームを編成して生産指導を展開しており、徐々に品質・収量が向上しているものの、年次によっては玄米タンパク質含有率や単収に変動が見られ、生産目標を下回る生産者が固定化する傾向も見られている。ブランドを維持するためには、生産者個々の作付けほ場の条件や栽培状況を確認し、改善点指導する必要がある。

また、令和5年に本格デビューした「はれわたり」の高品質安定生産のためには、関係機関等との密な連携により、適時適正な指導を展開する必要がある。

2. 活動内容（詳細）

県、市町村、集荷団体、試験研究機関で構成した東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核として、生産者や関係機関と情報共有し、以下のような活動を行って生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム連絡協議会を開催し、関係機関と活動内容について意識統一した。また、プロジェクトチーム現地検討会を開催し、管内の水稻生育状況や病害虫の発生状況、追肥指導などについて情報共有し、指導方法を確認した。

「青天の霹靂」は作付地域内5か所、「はれわたり」は2か所に設置した指導拠点ほの生育調査結果等を基に、育苗期、追肥時期、刈取時期に現地講習会を開催し、生育や気象状況に応じた適正管理を指導した。特に「青天の霹靂」の追肥は、プロジェクトチーム内の検討会を踏まえて、チーム員が個別に葉色値を測定して追肥診断を行い、地方独立行政法人青森県産業技術センターが開発したブランド



| 令和7年度「青天の霹靂」生産指導カルテ | | | | |
|------------------------------|------------|------|----------|----------------------------|
| 団体名 | 〇〇農協 | 支店名 | 〇〇営農センター | |
| 生産者名 | 〇〇-〇〇〇〇〇〇〇 | | | |
| 出荷実績 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 産目標 |
| 出荷基準達成率 | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 玄米タンパク質含有率 6.0%以下 | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 収量 (俵/10a) | 8.6 | 9.4 | 9.1 | 9.0 俵/10a |
| 1等米比率 | 100% | 78% | 100% | 100% |
| 玄米タンパク質 加重平均 (%) | 5.6 | 5.3 | 5.8 | 6.0%以下 |
| ランク | B | A | A | |
| 生産実績 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 産改善点 |
| 作付ほ場湿田割合 | 0% | 0% | 0% | 乾田・半湿田への作付 |
| 栽植密度 (株/坪) | 70 | 70 | 70 | 70株/坪以上 |
| 田植時期 | 5/14 | 5/15 | 5/15 | 5月20日前後 |
| 基肥量 (kg/10a) | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0kg/10a |
| 追肥量 (kg/10a) | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 栄養診断の実施により決定 →0~2kg/10a |
| 追肥時期 | 7/11 | 追肥なし | 追肥なし | 幼穂形成期頃までに実施 |
| 収穫時期 | 9/10 | 9/10 | 9/7 | 積算気温、稲の黄化程度等 から総合的に判断 |
| 栽培の改善点 | | | | |
| ・ 土壌診断結果を基に施肥設計しましょう。 | | | | |
| ・ 施肥量は現状が適切です。 | | | | |
| ・ 追肥はこれまでどおり栄養診断に基づき実施しましょう。 | | | | |
| ・ 健苗育成と浅水管理で初期生育を促進しましょう。 | | | | |

東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム

米生産支援システム「青天ナビ」を活用し、ほ場データ（土壌分類、腐植含量、過去の玄米タンパク値・収量）を確認しながら指導した。また、収穫は、稲の登熟状況や「適期収穫マップ」を活用し、ほ場の刈取の早晩を判断して、計画的に作業が進められるよう指導した。

「青天の霹靂」生産者全員に、個別の検査・出荷データ、栽培履歴や次年度の栽培の留意点を示した「生産指導カルテ」を作成して配布した。生産目標である①玄米タンパク質含有率6.0%以下、②単収9俵の達成状況により、生産者をA～Dの4段階にランク分けし、①、②ともに達成していないDランクの生産者と新規作付者は重点指導対象者として個別指導を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームの設置で管内すべての市町村を対象としたことにより、それまで対象外であった町村についても、情報共有や指導方針の意識統一など連携が強化された。

「青天の霹靂」は、「生産指導カルテ」により年度別の生産データや次年度の対応策の提示をするとともに、個別指導を実施することにより、良食味米を生産するためのほ場条件や土壌分類、腐植含量、施肥管理の理解度が向上した。

令和6年度は夏期高温であったものの、高温に対応した水管理や適期刈取指導等により、「青天の霹靂」の1等米比率は89%で前年の83%を上回り、「はれわたり」は94%で前年の87%を上回った。

一方で、「青天の霹靂」は、全般的に玄米タンパク質含有率が高い年であったため、新規作付者の出荷基準達成は4名のうち3名にとどまり、10a当たり収量は、8.4俵/10a（R1-5平均8.8俵/10a）にとどまった。

4. 農家等からの評価・コメント（青森市（農）M代表理事F氏）

「青天の霹靂」は、玄米タンパク質含有率の出荷基準が定められているので栽培は従来品種よりも難しい品種だと思う。しかし、当農事組合法人では、「青天の霹靂」をデビュー当時から長年作付けしているなかで、現地講習会に参加し、生産指導プロジェクトチームの指導を受けて追肥等を実施していることから、これまで一度も出荷基準をオーバーしていない。

「はれわたり」もデビュー当時から栽培しているが、追肥など指導を受けながら栽培していることから倒伏などは無く、安心して栽培できている。

最近では夏期の高温など気象変動が大きいので、今後も指導を受けながら良食味米を安定して生産していきたい。

5. 普及指導員のコメント

（東青農林水産事務所・主幹専門員・工藤龍一）

「青天の霹靂」は、出荷基準（玄米タンパク質含有率6.4%以下、品質1等及び2等）を達成しなければ「青天の霹靂」ではなく販売単価も下がることから、良品質と収量確保を両立させるためには初期生育の確保と生育診断による追肥判断が重要である。令和5年と令和6年は夏期の高温等が影響して

「特A」評価を逃しているが、「青天ナビ」を活用し、土壌条件に合わせた施肥や適正な栽植密度、特に夏期高温時に地温を下げる水管理などを講習会等で指導することにより、より良食味・高品質生産を生産し、青森県産米を牽引するブランドとして県産米の評価の維持、発展につなげていきたい。

また、「はれわたり」はデビュー以来2年連続して「特A」評価を得ていることから、良食味・高品質生産につなげる指導を継続していく。

6. 現状・今後の展開等

「青天の霹靂」は、栽培管理の見直しにより玄米タンパク質含有率や単収は改善されてきているものの、年次変動が懸念されることから、「青天ナビ」を活用した指導や講習会を継続して開催し、出荷基準を達成できなかった生産者に対しては個別の指導を行い、品質と収量の安定化を図る。

「はれわたり」は令和5年デビューであることから、プロジェクトチーム連絡会議や栽培講習会を通じて生産者に品種特性を伝えて栽培指導を行い、高品質安定生産を図る。特に令和6年度は、収量の低い地域もあったため、地域に合った施肥量を農協と検討する。